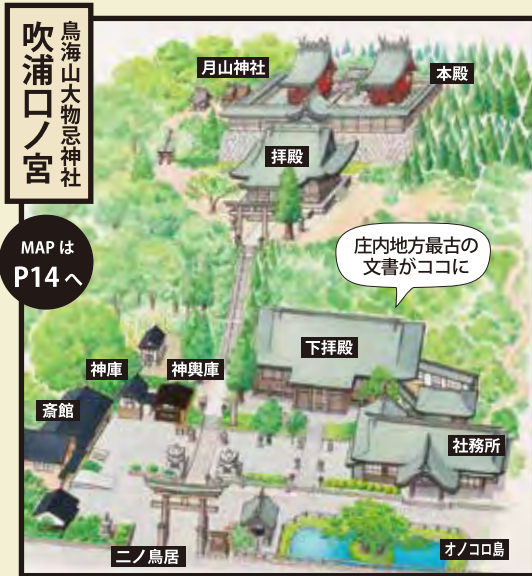
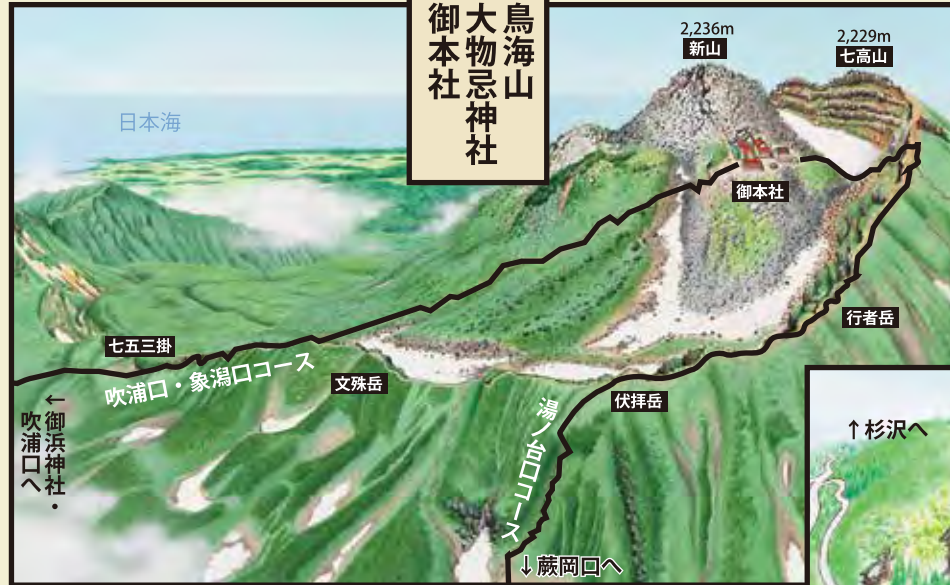


平安時代中期より
大物忌神と月山神を祀る海辺の里宮



吹浦口ノ宮は、古代から鳥海山の神「大物忌神」と月山の神「月山神」を主祭神としてきたため「両所宮」とも呼ばれてきました。境内の最上段に両本殿が並び立ち、国の重要文化財に指定されている貴重な文書も伝わっています。現在の本殿は、宝永3年(1706)正月の火災消失を受けて、宝永8年(1711)に庄内藩酒井家によって再建されたと伝わります。

イラスト：木山由紀子



噴火を繰り返す度に神位を高め、
中世には修験道で賑わった神の山

鳥海山大物忌神社は新山山頂の少し下にある「御本社」と2つの里宮「吹浦口ノ宮」、「蕨岡口ノ宮」の3社で構成されます。御本社には「御室参籠所(御室小屋)」が併設され、登山シーズンには登山・参拝者の宿泊所となります。また御本社の建物は、標高2000mを越えたところにありながら、三重県の伊勢神宮と同じ20年ごとに式年遷宮を行い、建て替えられています。



古絵葉書「鳥海山上御本社」(個人蔵)

鳥海山登拜口の中で
最も強大な勢力を
誇った山の里宮



蕨岡口ノ宮は、宿坊集落の面影を残す上蕨岡地区(通称「上寺」)のほぼ中央に位置します。随神門(かつての仁王門)をくぐると、右手に神楽殿が見えてきます。さらに参道を進むと、三ノ鳥居を経て、豪壮な本殿が南面して建っています。本殿は明治29年に東の山手に造営されましたが、昭和28年に現在地に移築されました。

巡る
鳥海山信仰
鳥海山
大物忌神社
Mountain Worship

水といのちが巡る鳥海山は、
古代から大物忌神として崇められてきた側面も。
その信仰文化は3つの社を中心に
脈々と受け継がれてきました。

噴火躍動する
恐るべき神の山

古くより山そのものが「大物忌神」として崇められてきた鳥海山。838年の『続日本後記』には、大物忌神が国家に関わる重要な出来事を予言する神であり、噴火鳴動する恐るべき神として朝廷に認識されていたことが記されています。

全国的に修験道が盛んになった中世以降は、鳥海山でも秋田県側を含めて6つの登り口に修験集落が形成され、鳥海修験が広がりました。しかし主張などが異なるため登拜口同士で争いが勃発。特に山頂に奥の院を持つ蕨岡と秋

田県側の矢島は度々論争をくり返し、1704年には幕府を巻き込む庄内藩と矢島藩の領境争いに発展しました。その結果、山頂は庄内藩の領土に。現在、山頂が遊佐町となっているゆえんです。

登拜者でにぎわった
2つの里宮

龍頭寺を学頭に、最盛期には33坊を有するなど最も強大な勢力を誇った蕨岡。一方25坊3社家を有した吹浦は、奥の院が鳥海湖の御浜で修行の場が笹ヶ岳だったため、山頂論争には関与しませんでした。状況が激変したのは明治時代。神仏分離令と修験禁止令によって修験道が衰微してい

き、代わって女人禁制が解かれ豊作などを祈る「お山参り」が盛んになりました。人々は宿坊で精進潔斎をした後、先達に導かれて山頂へ。高山樗牛の「鳥海山紀行」にも1891年8月の夜中1時に蕨岡を出発して頂上に登り、吹浦口に下山して湯の田温泉に泊まったと記されています。海に面した湯の田温泉は、避暑地として、また登拜を終えた人たちの精進落としの地として繁栄しました。

しかし、このお山参りも昭和50年代に入ると一気に減少。自然を楽しむ観光登山が主流となり、今に至ります。

今も地域に伝わる
鳥海山信仰の姿

このような歴史を持つ鳥海山信仰ですが、鳥海山大物忌神社は現在も出羽国で最も格式の高い一宮。御神体の大物忌神は、浄化力が強く、邪気を払い、秘められた才能を開

鳥海山大物忌神社の
御朱印を受けるには

吹浦口ノ宮にて、吹浦口ノ宮と蕨岡口ノ宮、丸池神社、登拜シーズン外の御本社と御浜神社の朱印が受けられます。

毎日受付 / 9:00 ~ 12:00
13:00 ~ 16:30

がない人はそちらにご参拝を。御朱印は吹浦口ノ宮の社務所で受けられます。また車で5分ほどの地には、神秘の池として有名な丸池様もあります。

吹浦口ノ宮



吹浦田楽 5/4・5

4日の例大祭宵宮には、かがり火の焚かれるなか花笠舞が本殿に向けて奉納されます。宵宮においては花笠を山吹や八重桜などの生花で彩りますが、5日の本祭りでは、鮮やかな赤い造花が装飾に用いられます。特設の舞台での舞のクライマックスには、花笠は参拝客に向かって投げ入れられ、ご利益を求める人々が奪い合います。



御浜出神事 7/14

「火合わせ」ともいいます。神事当日、大物忌神と月山神のみこしが、吹浦口ノ宮から西浜海岸まで巡行し、鳥海山山頂、7合目御浜、西浜海岸、宮海、飛島の5カ所で同時にかがり火を焚き、五穀豊穡、大漁を祈ります。

吹浦エリアには、こんな見どころも！

MAPは P13



よせんじ 劔龍山 永泉寺

もとは役小角（えんのおづぬ）が鳥海山中腹に道場を開いた7世紀に遡る古刹。境内には荘厳な建造物が建ち並び、数々の文化財が安置されています。最上義光の家臣で亀ヶ崎城代の志村伊豆守の供養塔も。見学無料ですが事前に連絡してください。(0234-77-2122)

MAPは P14



十六羅漢岩

吹浦海禅寺21代寛海和尚が、日本海の荒波で命を失った人々の供養と海上安全などを願って明治元年に完成させた22体の岩仏群。これだけの規模は日本海側ではここだけといわれ、歴史的にも貴重なものです。毎年夏にはライトアップされています。

MAPは P29



山本坊庭園

蕨岡修験33坊の組頭として山本坊を営んできた鳥海家の庭園。歌人・鳥海昭子の生家です。春は桜や椿、水芭蕉、初夏には白百合と季節ごとに咲き誇ります。標高100mにあるため見晴らしも良く、境内の椿は町の天然記念物に指定されています。見学無料。



龍頭寺仁王尊

龍頭寺は、蕨岡修験33坊を率いた醍醐三寶院直末の寺格をもつお寺。明治の神仏分離で他が神式に変える中、唯一真言宗の寺として残りました。本堂玄関前に安置されている仁王像は、この時に蕨岡口ノ宮の随神門から龍頭寺に引き取られたものです。



蕨岡延年 5/3

かつて蕨岡の修験の家に生まれた者は、3歳になると懐児（だきちご）として法会に参加し、跡継ぎとしての一山衆徒の承認を得ました。その後、童哉礼（どうやり）などの稚児舞を舞い、16歳になると髪を剃り、得度して初峯入の新客を務めました。さらに、太平楽などの延年を舞い、25～6歳で田楽役を務め、これらの役が済んで初めて、鳥海山道者を案内する先達の位である先途（せんど）の修行に入ることが許されました。先途の位を得るためには、「胎内修行」といわれる10カ月にも及ぶ修行を行いました。このように蕨岡修験においては、芸能と修行は一体のもので、年齢に応じた通過儀礼が組み込まれていました。5月3日の例大祭では、伝えられている8曲（うち3曲が稚児舞）が奉納されています。

蕨岡に来たらぜひココも！



杉沢比山 8/6・15・20

会場：杉沢集落の熊野神社特設舞台

蕨岡からさらに奥にある杉沢集落に伝わる舞。鳥海修験の隆盛と衰微の変遷を経ていつしか鳥海山の山伏から村人の手に受け継がれてきたものといわれています。猿楽、呪師、田楽などが結び付いた独特の舞で、芸能史上価値の高いものと評価され、昭和53年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。熊野神社拝殿前に設置される仮設の舞台にて、静かな山里の星空のもと演じられる比山は、時に勇壮、時に荘重、時にひょうきんで、見る者を魅了します。

巡る 伝 能 芸 神 事

鳥海修験の面影や鳥海山信仰の精神は、2つの里宮で続けられている例大祭や行事から垣間見ることができます。

大物忌神に捧ぐ神事

蕨岡口ノ宮



鳥海山の豊かな自然と信仰文化の中で生きる遊佐町民は人口1万3千人弱。近年は移住者が増え少年議会など若者世代が躍動しています。

伝統を大切に新しいコトにも積極的なゆざびとたち

鳥海山の水に加え、庄内平野が広がる農村地帯、漁業が盛んな港町と漁村、商店が集まる中心部と人が暮らす上で必要なものが全てそろった町。昔からの風習や行事を継承している集落も多く、ゆざびとたちはこの地の自然と歴史・伝統に誇りを持って暮らしています。一方で新しいコトやモノにも積極的に、地域おこし協力隊事業も庄内地方ではいち早く導入。2023年までに23名の隊員が活動し、うち8名が定住してお店を開いたり起業したりするなど、町に新たな風を運んでいます。また「NPO法人いなか暮らし遊佐応援団」と町が連携した移住促進事業では、1年間で最大60名移住した年もあり、町民仲間を着々と増やしてきました。中高生を対象とした遊佐町少年議会（詳細は下欄）も全国的な注目を集めるなど、「若者が躍動する町」は年々進化しています。

東京から移住して農業をしています

庄内柿の農家



松本 香さん

2018年に家族で遊佐町に移住した東京生まれの松本さんは、庄内柿と生食用いちじくの生産者です。遊佐で暮らして感じるのは、四季折々の美しい自然の中に行われることの幸せ。親切な人が多いのも、鳥海山が美しいところも、水がおいしいのも大好きだとか。水は胴腹滝の湧水を定期的に汲んでいるそうですよ。

松本さんの柿といちじくの購入はインスタグラムから!




遊佐ののんびりしてるところが好きです

和食料理人




高橋 喜和さん

遊佐町民は皆さん良い人。食材もお米もとにかくおいしいですよ。

1956年創業の日本料理店の4代目。新鮮な地元食材を使い、東京などで磨いた腕で遊佐の味を提供しています。家業と同じくらい力を入れているのが、町の活性化活動。NPO法人遊佐鳥海観光協会に参画し、遊佐を楽しむイベント運営などを行っています。好きな遊佐スポットは八ツ面川沿いの夜桜と藤井から見る海と庄内平野だとか。


高橋さんのお店はココ!

割烹 富士屋
0234-72-2006
遊佐町遊佐字京田15
昼・夜とも要予約



地域の人がつながる場づくりをお手伝いしています

第2期 遊佐町少年町長




赤塚 縁さん

豊かな自然はもちろん、大人が楽しそうなおとも遊佐の魅力です。

吹浦まちづくりセンターで働く赤塚さんは、第2期遊佐町少年町長さん。少年議会での活動を通して地元の良さに気づいたことが、その後の人生の選択につながったそう。そんな赤塚さんのおすすめは、鳥海ブルーラインのドライブコース。特に4～5月は、地元の人たちが育てている花々が道端で咲き誇るそう。おもてなし心が満ちる道へgo!

吹浦まちづくりセンターにお立ち寄り



若者も町づくりに参加しています!

第20期 遊佐町少年町長



佐藤 聖さん

少年議会での貴重な体験を遊佐の未来に生かしたいです。

佐藤聖さんは中学1年生で少年議会に参加し、自分の提案を町が実現してくれたことや10代でも町のためにできることがあると実感したことで、以後も議員活動に挑戦し、高校2年生からは少年町長を務めていました。今後は大学で情報系について学び、いずれ町の課題解決に役立てたいそう。がんばれ、未来人!

佐藤さん率いる2022年度の少年議会



町のイメージキャラクター「米〜ちゃん」



少年議会でも町民に公募して決まりました

ドーンと広がる田んぼ一面の庄内平野に山・川・海まで全部がそろった自然環境。遊佐って本当にスゴイところですよ。

生き物探求歴41年、登山歴40年、写真歴39年、ガイド歴38年、学習指導員歴20年以上という多彩な顔を持つ畠中さんは、遊佐のことなら自然系でも文化系でも何でも知っている博学者。スケールの大きな海&山と、心洗われる湧水がコラボする遊佐の自然をとことん愛し、その魅力をわかりやすく老若男女に伝えています。いつもひっぱりだこの人気者ガイドさん。

鳥海山・飛鳥ジオパーク推進協議会
0184-62-9777
info@chokaitobishima.com



子どもの頃から生き物マニア

認定ジオガイド



畠中 裕之さん

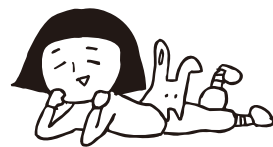
町の自慢! 遊佐町少年議会

若者の町政参加を目的に発足したのは2003年。毎年5月に候補者を募り、募集定員を超えた際には選挙も行います。少年議会のメンバーは、町の中学生と高校生の代表として政策を立案。町長らに提言をした後、町の独自予算で政策実現に向けて活動します。これまでの政策にはミュージックフェスティバルの企画開催やベンチの作製、町の特産品開発など。近年は国内留学制度「地域みらい留学」で遊佐高校に入学した県外出身の生徒も参加するようになり、より活性化しているとか。若者が町を知って地域づくりに参画し、民主主義を学ぶ機会となっています。



地域の優れた民主主義向上活動を表彰する2022年第16回マニフェスト大賞「成果部門」で最優秀賞を受賞しました!

遊佐に導かれて拠点を設け
遊佐の魅力を発信する人たちがいます。
そんな彼らのお店で楽しむ
遊佐の「食」とくつろぎ「時間」。



- 人気ランチの1つ「うまだれにんにくチキン」はボリューム満点。でもおいしいからペロリといけます。
- 店主の高橋可奈絵さん。
- パフェも人気。
- 看板はじめ店内のメニュー表はすべて可奈絵さんによる手書きです。
- 左が店主の野里常直美さん。ご主人の雅行さんは酒田市で別会社を営みつつ、パン屋経営にも参画しています。
- フランス式石窯で焼くパン各種。
- エジプト式石窯では、焼きたてピザを提供しています。

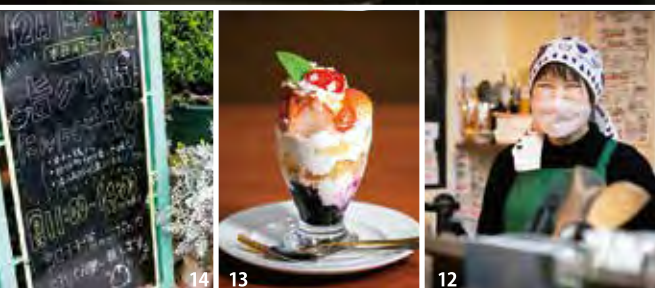
- 店内はどの席からも鳥海山を眺められます。
- メニューはドリンク中心で体にも良いものばかり。
- オーナーがコツコツと整備した森「作家の遊び場」。
- ギャラリーには眺めているだけでも楽しい絵や器が。
- おやきは季節によって5~8種類。具は産直にあるもので決めるそう。
- 店主の林千歩さんは、協力隊のご主人と一緒に遊佐町に移住しました。
- 建物の魅力を生かした素敵なしつらえ。

MAPは
P14



体によさしいボリュームごはん
心とお腹を満たすならココ

11



MAPは
P13



2種類の石窯で焼くこだわりのパンを
ほおばるならココ

8



MAPは
P29



古民家のおしゃれ空間で
まったり小腹を満たすならココ

5



MAPは
P10



鳥海山を眺めながらゆったりとした
時空間を楽しむならココ

1



「遊佐町空き家再生プロジェクト」3店舗目。自身も協力隊員だった中山町出身の高橋可奈絵さんが、一緒に移住した母親の富貴子さんと営んでいます。調味料にもこだわり、食材は自家菜園で丁寧に育てている野菜や地元元升川産のお米など、体によさしいものばかり。日替わりランチは洋食から和食まで幅広いため、ピーター続出とか。お昼も夜も人が集い、笑顔がふれる町のオアシスです。

「体が喜ぶパン」をコンセプトに、北海道岩見沢産の小麦粉「キタノカオリ」厳選した国産食材と自家製酵母を使い、フランス式石窯とエジプト式石窯で焼くパン屋さん。埼玉でパン屋を営んでいた野里常直美さんが、ご主人の単身赴任先の庄内に来た時に、鳥海山麓からの庄内平野の景色に感動して移住、開店しました。店舗は安全安心にもこだわり、製造工程が全て見えるオープン工房です。

尾花沢市出身の林千歩さんが、地域おこし協力隊による「遊佐町空き家再生プロジェクト」第1弾でオープンしたお店。「町中にある非日常」をコンセプトとした店内は、丁寧に使い込まれてきた古民家の魅力が最大限に生かされた、趣深い空間に。四季の移ろいが感じられる酒脱なしつらえの中で、旬の食材を使った特製おやきが味わえます。テイクアウトもできますよ。

窓の外に迫力ある鳥海山がそびえるお店は、空気と水がきれいな地を求めて横浜から移住したオーナーご夫婦が、「この場所の豊かさを皆と共有したい」と始めたカフェギャラリーです。メニューや展示品はご夫婦が惚れ込んだものばかり。最近では隣接する森や広い庭も整備されてベンチが置かれ、お店空間が外に拡大しています。非日常な自然&アート空間で、心洗われる時間が過ごせます。

おすすめポイント

- 水木は毎回多様な味が楽しめる日替わりランチ営業。金土は夜のみ酒場営業。
- 野菜は自家菜園産など。
- 高橋さん母娘のアットホームな雰囲気癒されます。

清水森食堂

遊佐町吹浦字宿町 17
080-6004-1073



←最新の
営業情報は
こちらから

おすすめポイント

- ライ麦使用のドイツ風田舎パンはクセになります！
- 注文を受けてから焼き上げる熱々ピザは絶品。
- 外で鳥海山を眺めながら購入したパンが食べられます。

薪石窯工房 YUZA

Boulangerie NAO
遊佐町北目字家ノ前29-6
0234-31-7650



←最新の
営業情報は
こちらから

おすすめポイント

- リノベした古民家ととにかく趣があっておしゃれ。
- 「おやきランチ」はお好きなおやき2個、サラダ、飲み物。
- 甘酒は店主が仕込んだ寒造り麴を使った手作りの味。

古民家カフェ
わだや

遊佐町吉出字和田 3-5
0234-31-8650



←最新の
営業情報は
こちらから

おすすめポイント

- お店からの鳥海山が絶景。
- オーナー手作りの森「作家の遊び場」の散策も楽しい。
- 眺めの良い屋外ウッドデッキやベンチにドリンクやスイーツの持ち出しOK!

ギャラリー&ティールーム

Sui 翠
遊佐町吉出字袋地 68-2
0234-72-5757



←最新の
営業情報は
こちらから